

● ガレッジセール ゴリさんインタビュー

**やりたい！と思う気持ち
学びたい！と思う気持ちが
夢を実現するために最も必要なこと**

沖縄を代表するお笑い芸人の『ガレッジセール』ゴリさん。
バラエティ番組はもちろん、クイズ番組、ドラマや舞台・映画に出演、
そして映画監督としても高い評価を受けています。
その多彩な才能はいったいどのように生まれたのか？
ゴリさんにうかがいました。



子どもの頃のゴリさん

小さい頃から目立つのが好きな子どもでした。テレビで面白いことをやっていたら、翌日学校でそのものまねをして友達を笑わせたりとか。それと体を動かすのが大好きで、小学5年生からブレイクダンスとか踊っていました。かっこいいものに憧れるというか、みんなに「すごい」「面白い」と言ってもらいたくてね。



沖縄からは芸能界に入れない と思っていた小学校時代

僕が小学生の頃は、沖縄出身の芸能人ってほとんどいなかった。具志堅用高さんとかスポーツ分野ではいましたが、役者とか歌手とかは、いたと思いますがわからなかった。だから沖縄から芸能人になれる人っていないかと思っていました。

僕は影響されやすいので、「トップガン」の映画見たらパイロットになりたいとか、金八先生のドラマ見たら先



生になりたいとかね。将来何の職業に就きたいと決めていたわけではなく、毎日コロナ変わっていました。



はむちゃん言葉に衝撃！ 自分の道が見えてきた浪人生時代

僕、大学2浪しているんですよ。首里高校卒業して同級生のほとんどが進学。僕も当たり前に進学希望。でもどこの大学へ行きたいのか、何やりたいとか、無いんですよ。みんなには「すごい」って言われたりから、早稲田大学、慶応大学あたりかな？って（笑）。当時は全く学力がとどかなかったんで、1年目は沖縄で浪人生しました。でも全然学力が伸びなかったん

です。案の定不合格で「でも、まぐれで受かるかもしれない」って思って、2浪目は東京の予備校へ行きました。最初は東京の生活にワクワクしましたが、慣れてくると…。2浪目ともなると、同級生はもう二十歳になって大学生生活をエンジョイしているわけです。コンパしたりあちこち遊びに行ったり、もう楽しそう。俺ひとり、毎日満員電車でゆられて予備校行ってるだけ。家に帰っても単語覚えるだけとか。自分だけが人生おいていかれてるって気がしました。

学力も一向に上がらないし、沖縄帰ろうかなって。そしたら同じ下宿のはむちゃん（羽村君）が「神様がどんな職業にでもならせてあげるって言ったら何になりたい？」って聞くんです。僕は映画とか好きだったから「インディ・ジョーンズになつて秘宝を見つけたら、ヒロインとロマンスがあったり…楽しいよねー」って言ったら「もう決めてるじゃないか」って。ドキッとしました。

いろいろ調べて、日本大学の芸術学部を目標にしました。俳優コースとか



映画監督コースとか、大学で芸能界みたいな学科があるなんてびっくりしました。しかしこの時点でも芸能界を目指そうとはまだ思っていない。大学の卒業資格があったら、沖縄へ帰っても就職に有利だろうし、公務員試験も受けられるだろうから、くらの感覚でした。でも、どうせ4年間大学へ行くんだったら、興味のあるものをいっぱい勉強して就職できたらいいな、と思っていました。そして日大芸術学部へ行くんだと決めたら、嘘みたいにぐんぐん学力が上がって、一発で合格しました。

充実の大学生活が芸能界への扉を開ける

大学生の頃は、監督コースの子と組んで短編映画を撮ったり、いろいろと伝手（つて）ができるから、この世界と。エキストラをやった時は、テレビで見た人がいっぱいいましたし、楽しかったですよ。現場に出る機会が増えてくると「あれ？芸能界ってそれほど遠くないのかな？」と思えるようになりました。一回しかない人生、足を踏み入れてみようかって、その時に思いました。友達から「面白いからお笑い芸人になれ

よ」って言われて。お笑いって全てのジャンルができるじゃないですか。コントもあれば映画もドラマもバラエティも。お笑いって一番マルチなエンターテインメントって気がついたんですね。やってみようと思って、川ちゃんに電話かけて誘いました。川ちゃんは当時沖縄でレンタルカー会社のバイトをしていて、2か月ぐらいで60万貯めてすぐ来ました。川ちゃんも沖縄のお笑い選手権みたいなものに出ていましたので、グッドタイミングでコンビを組んで、すぐに吉本興業にオファーしま



遅いスタートだからこそ 人一倍の努力を

吉本からは、東京にNSCができたから、そこに1年通ったら劇場で使ってもらえるというので行ったら、ちょうど1週間前に締切でした。とにかくみんな18〜19歳で芸人始めるので、僕らのように23歳というのはかなり遅いスタートなんです。だからこれでは遅すぎると思って、使ってもらえる劇場



を探していました。

渋谷のコンドル劇場で「ボランテ ィア募集」の貼紙があつたので、すぐにお願ひしました。そしたら劇場の方に「タダだよ！ギャラ無いよ。冗談で貼ったら本当に来た！」って言われました（笑）。僕はタダでいいので、そのかわり、本番中は勉強したいので先輩の芸を舞台のそでで見せて欲しいとお願ひしました。チケットのもぎりだとか客席の掃除などの仕事はきちんとやって、

本番は先輩の芸を見せてもらいました。芸を勉強しながら自分たちのコントのネタを作って、そのつど劇場の社員さんたちに見てもらいました。

劇場に出演する若手芸人たちは、一か月で1本ネタを作るのですが、僕は一か月じゃダメ、一週間で1本作る！しかも毎週新ネタで勝負する！を心がけました。劇場の入場料は500円。若手しか出ないけど、僕は毎週違うネタだからお客さんもどんどんと

ついてきました。社員さんから「お前らNSCにも入ってないけど、特例で吉本に入れてあげるよ」と言われました。特例でしかもボランティアスタッフから！その後も劇場へ出ながら、深夜番組のオーディションにも呼んでいただいて。さらにオーディションでも、他の芸人とは違うものになしようと決めました。当時多くの芸人たちは、入りですぐに会話なりアクションに入るけど、僕は「エンジョイプレイ」とか目を引くスタイルをして、今までの芸人達がやったことのない入りのスタイルを作ったんです。そしたら審査員が僕らに食いついてきました。「沖縄出身のコントって始めてじゃない？面白いな」って。僕は他の人たちの何倍ものスピードでネタを作って、テレビに出るチャンスを手に入れた。芸人さんたちは普通10年とか下積みをするけど、僕ら2〜3年でもうテレビに出られたから、結構早いほうだと思います。運も良かったのかもしれないが笑。



後輩たちに贈る言葉

僕は他の職業に就いたことがないからわかりませんが、芸能界は一見楽しそうに見えるけど、裏ではキツイこと、苦しいことがいっぱいあります。でも、その中でも自分が楽しんで、見ている人が自分以上に楽しんでもらえる良い仕事だとも思っています。

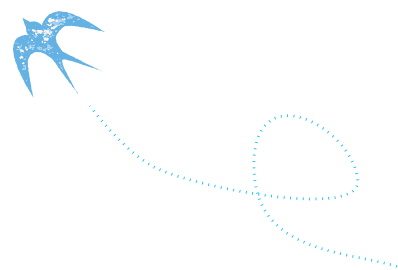
僕は、はなから芸能人になれるとは思ってもみませんでした。ですが「自分には才能がないから」「かつこよくないから」「かわいくないから」等、あきらめる前に、そんな理由は全然関係ないことが分かりました。やりたいという気持ちが一番大切なんだと。どの仕事もそうだと思いますが、「やりたい、学びたい」という気持ちが強いほど、新しいスキルを身につけられるし、仕事や学業の効率やスピードが





上がっていくと思います。僕もお笑いのネタなんて作ったことなかったけど、やりたいんだって気持ちがあったから作れた。どの仕事もそうだろうけど、基本は学校で習う勉強が全て必要になってきます。無駄なものはないです。僕も中学高校とあまり勉強したほうではなかったけれど、今のほうがいろんなことを勉強しています。例えばクイズ番組に出演した時には、学校で学んだ知識が必要だし、トーク番組では、ゲストから会話を引き出すために、広い知識がないと会話も盛り上げられないじゃないですか。ネタをつくるときもそう。相手に伝わるための文章力・

読解力が必要だし、僕は今もたくさん本を読んで学んでいます。
現在学生のみなさんに「勉強って何の役に立つの？」と聞かれたら、躊躇なく「全部」と答えます。学校の勉強は夢を実現するために必ず役に立つてくれるから。学校の勉強は仕事をする上で全てにつながっていく。だから今、授業はしっかり受けて、大人になったとき、それを存分に発揮してなりたい職業に就けるよう、みんな頑張ってくださいね。



〈ガレッジセール・ゴリ〉

(プロフィール) 1972年5月22日 (45歳) 沖縄市生まれ。

- | | |
|-------|--|
| 1995年 | 中学生時代の同級生、川田広樹と「ガレッジセール」を結成。 |
| 2006年 | 初の監督映画「刑事ボギー」を制作。 |
| 2007年 | 「ボギー ザ・ヒーロー」 |
| 2009年 | 初の長編映画「南の島のフリムン」を制作。 |
| 2011年 | 「伝説の家族」 |
| 2012年 | 「SNS」 |
| 2013年 | 「税金サイボーグ・イトマン」 |
| 2014年 | 「ロクな人生」 |
| 2015年 | 「やんばる キョ!キョ!キョ!」 |
| 2016年 | 「born, bone, 墓音。」
※ショートショートフィルムフェスティバル2017 ジャパン部門賞グランプリ受賞 |
| 2018年 | 2作目となる長編映画「洗骨」を制作。※モスクワ国際映画祭に出品 |